

千葉県中核地域生活支援センターニュースレター

ちばの地域福祉

千葉県中核地域支援センターへの敬意と期待

社会福祉法人 ロザリオの聖母会
理事長 桑島克子

2008年4月ロザリオの聖母会が運営する重症心身障害児入所施設「聖母療育園」に常勤医師として就職しました。以前隣県で28年間、入所・外来診療に加えて県内の殆ど全ての児童相談所を介しての巡回診療や6保健所で乳幼児健診後の二次検診に従事しました。身体・知的発達やコミュニケーション障害のある児の診療の中では福祉行政の占める割合は大きかったが、医療側の視点では部分的でした。聖母療育園に勤務しても主として施設入所者に対応する医師として仕事を続けました。

2011年5月の細淵前理事長死去に伴い社会福祉法人理事長を引き継ぎ社会福祉の真只中に身を置き、地域福祉に携わる人々に触れる機会を通して、生きにくい人々に寄り添い、相談・介護・支援を仕事とする人々の姿に度々圧倒されました。次々と打ち出される福祉関係の法律は複雑で医療関係の比較的分かり易い法律に慣れた者にとっては細目まで理解するには何度も読解が必要でした。相談事業も千葉県独自の中核地域生活支援センターをはじめ各種相談支援事業、地域包括支援センター、基幹相談支援センター、虐待防止センターと背景の法も異なり重なり合う部分もあり、利用者は戸惑うでしょう。これらを市町村が主体となると地域格差が問題となり切磋琢磨の利点も期待は出来ませんが規模の大小により担当職員は不足し地域の福祉団体が全てカバーすることができるのでしょうか？以前保健所業務の一部を市町村に移し保健所数を減少させた時期に仕事をしていた時、先に記したリスク児の受け皿資源が市町村によって異なり保護者への説明に苦労しました。資金難の中、先輩格で実力を蓄えた中核が谷間なくひとりも漏らさず、相談に訪れた人だけでなく問題を掘り起こし地域福祉に熱意と力量と謙虚な面も滲ませて当たり、後に続く人へ導となり関係する人びとに広く福祉へ共感を呼び起こす教育効果も期待します。

- 今後の重要課題 -

松戸市障害福祉課長 宮間 秀二

障害福祉課では、現在、平成25年度から32年度までを計画期間とする「第2次松戸市障害者計画」の策定に取り組んでいます。

学識経験者、地域の福祉関係者、公募市民による「障害者計画策定委員会」を設け、精力的にご議論を重ねていただいています。策定作業も終盤を向かえています。今後重点的に取り組むべき課題が見えてきました。

一点目は、地域の相談支援の拠点となる基幹相談支援センターの設置、市民後見人の育成など成年後見制度の普及促進、障害者虐待の防止体制の整備等々、地域で安心して暮らすための諸事業を推進することです。

二点目は、就労の支援はもとより、障害者福祉施設で働く方の工賃の向上や施設の受注拡大を図ることです。来年4月から障害者優先調達法も施行されます。官公需の拡大を図るため、市役所内の各部署に対し、障害者福祉施設で受注可能な品目のリストを提供し、発注を働きかけています。

こうした重要課題に取り組むほか、障害福祉課の窓口では、障害者手帳の交付、障害福祉サービスなどの利用についての相談、各種手当、医療費の助成など様々な業務を行っています。職員数は50名を超える大所帯になっています。

障害福祉課の前身は、昭和48年にスタートした「しあわせ課」です。松戸市役所でひらがな名の課といえば、「すぐやる課」を思い浮かべる方も多いと思いますが、当時「お元気でしあわせ」という願いをこめて、お伝えさせていただく課」として設置されました。

昨年、障害者基本法が改正され、すべての人が、障害の有無によって分け隔てられることなく、お互いに人格と個性を尊重し合いながら共生する地域社会の実現を目指していくこととされました。「しあわせ課」ができた当時と比べ、日本の障害者施策は大きく変化してきましたが、「しあわせ」な人生を送るということは、障害のある人もない人も共通の願いであり、今も昔も変わりません。

これからも「しあわせ課」の原点を忘れず、障害のある人もない人も“住み続けたいまち・まつど”を目指して努力していきたいと思えます。

ちば・元気印！～こんなひと、見つけた～

小規模多機能ホーム ろくじろう



アロマ姉さん

「ろくじろう」って...

『小規模多機能ホームろくじろう』は住み慣れた南房総で気の知れた仲間、スタッフと「通い」を中心に、希望に応じて「宿泊」「訪問」を組み合わせ、『自宅で継続して生活するために』必要な支援をしている事業所です。

今回は代表の小池美喜子さんへお話を伺いました。

「アロマ屋が始めた素人介護」

20年間のアロマセラピスト人生の中で、アロマを介護に取り入れたら心（不眠・不安・怒り・あきらめ）と体（肌の乾燥・浮腫み・冷え）のケアが同時に出来るなあとずっと感じてきました。でも、本物のアロマは体内に浸透していく（血液・リンパ液・細胞間液等）ので、使い方によっては危険と隣り合わせ。現場でクライアントに実践して事例を取るには時間とコストがかかる...。そのため、介護職の方たちは本気でアロマを取り入れようとはしてくれません。それなら自分たちでやってしまおうと、3年前に介護事業を立ち上げてしまいました。

アロマセラピストとして得た経験を、介護現場で実践し、その効果を目の当たりにする事ができました。（介護現場では料金は一切頂いていません。）



「赤ちゃんも、お年寄りも、障害のある人も、そうでない人も」

いろんな人がいるのがろくじろう。いろんな人がいるから、自然。こんな共生型が有りだって事を学んだのは、富山県の『にぎやか（共生型在宅福祉サービス・富山型デイサービスを提供）』の坂井由佳子さんが書いた本からでした。ろくじろうは介護職素人で、介護者家族が始めた介護事業。だから怖いものなしで、なんでも素直に実践してしまいました。毎日が笑いとおりがとうの渦の中で過ぎてゆきます。介護職ってなんて楽しい仕事なんでしょう。

「子連れ出勤、大歓迎！」

『子供は絶対にいたほうが良いよ』

開設前に見学に行った花見川区の石井さん家（宅老所）で教えてもらった事を実践してみました。介護現場では、高齢者は「やってもらう立場」に必然的になってしまう。でもそこに小さな子どもや赤ちゃんがいると「やってあげる」役割が自然に出てくる。泣いたらあやす。大丈夫だよと声をかけてあげる。子守唄を歌ってあげる。成長と一緒に感じることができる。小さな役に立つ自分がそこにはいる...

子どもは偉大なヘルパーでした。幼いころにママと通ったママの職場は、子どもたちの「実家」のように感じる場所ようで、みんな大きく なっても大好きな場所です。その時に一緒に笑ったり叱ったりしてくれたお年寄りは、もういないかもしれません。学校に行って、つらいことがあった時に帰ってきてほしいと思っています。老いる事、死ぬこと、生きることを自然体で学べる場所になりたいと願っています。



〔問い合わせ先〕

小規模多機能ホーム ろくじろう

代表取締役 小池 美喜子

tel 0470-28-5541

fax 0470-28-5542

前列一番左が小池美喜子さん



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

災害時における障害のある人への支援について考えるフォーラム

- [内 容]** 今回のフォーラムでは、東日本大震災発災時及び震災後の取り組みを通じて、地域で安全・安心に暮らすためにはどういった支え合いや助け合いの取り組みが必要なのかを考えてみます。
- [プログラム]** 基調講演「あと少しの支援があれば」
被災地からの報告
シンポジウム「障害のある人が地域で安全・安心に暮らしていくために」
- [日 時]** 平成24年12月16日(日) 10:30～16:00 (10:00～受付開始)
- [会 場]** 千葉県教育会館 1F大ホール (千葉市中央区中央4-13-10)
- [定 員]** 350名 **[参加費]** 無料
- [申込方法]** 所属団体・氏名・住所・電話番号等を事務局まで Fax、郵送またはEメールでお申し込みください
- [申込締切]** 平成24年12月12日(水)
- [申込・問合せ]** 千葉県健康福祉部障害福祉課企画調整班
〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1
: 043-223-2935 Fax: 043-222-4133
E-mail: syohuk@mz.pref.chiba.lg.jp

第10回地域ふれあいフォーラム「自分らしく生きる～WRAPから学ぶ～」

- [内 容]** 地域ふれあいフォーラムとは、当事者・精神保健福祉士等の従事者・地域の方々が1つのテーマに関して意見交換などを通して、お互いを理解し地域生活を送るために必要なことを話し合うフォーラムです。今回は「自分らしく生きる～WRAPを通して～」というテーマで、自分らしく生きるとは、どういうことかを考える会にしていこうと思っています。WRAPとは、Wellness Recovery Action Planの略で、日本語では「元気行動回復プラン」と訳されています。WRAPは、自分自身の心や身体の状態を整理するお手伝いをするものです。一人でも多くの方に参加していただき、WRAPを体験して頂きたいと思っております。当日参加していただけることを実行委員一同お待ちしております。
- [日 時]** 平成25年1月12日(土) 14:00～16:30 (受付13:30開始)
- [場 所]** 千葉市民会館 小ホール (千葉市中央区要町1-1) **[参加費]** 資料代 300円
- [申込方法]** 所属団体・氏名・住所・電話番号等を事務局までメールまたは郵送でお申し込みください
- [申込・問合わせ]** 地域ふれあいフォーラム実行委員会事務局
地域活動支援センターもくせい舎内 担当: 保坂
: 047-475-7898
E-mail: mokuseisha398@arrow.ocn.ne.jp

発行元: 千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局: 海匠ネットワーク(海匠圏域) 旭市イの1775

TEL: 0479-60-2578

FAX: 0479-60-2579

編集: いちはら福祉ネット(市原圏域)市原市東国分寺台3-10-15 TEL: 0436-23-5300 FAX: 0436-23-5225

内容についてのお問い合わせは、いちはら福祉ネット(担当: 高地)までお願いします。